

ツール 48：カード・クラスタリング

このツールの目的

時間をかけずに、アイデアを生み、グルーピングし、複数のアイデアを統合し、議論とコンセンサス形成を促進する。

このツールを使うタイミング

このツールはMSPのさまざまなフェーズで使うことができるが、特に有用なのが収束のフェーズだ。多様なメンバーで構成されるグループや1つの問題についてさまざまな意見があるグループにおいて、あるいは階層が存在する場合に、このツールは効果を発揮する。

カード・クラスタリングとは

カード・クラスタリングとは、ファシリテーターが主導するプロセスで、カード（またはポストイット）を用い、アイデアを集めるために行われ、特にさまざまな回答が予想される場合に有用だ。このツールは12～20人のグループ向きで、グループの人数が多い場合、少人数グループに分けるとよい。最初に質問を行い、アイデアをカードに書き留め、その後似たアイデアをグルーピングする。それぞれのグループにタイトルを付けた後、優先順位付けを行い、さらに検討していく。

カード・クラスタリングは、グループとしてのアイデアを統合し、コンセンサスや議論を促すのに非常に役に立つ。このツールの大きなメリットは、通常はグループディスカッションの際に沈黙を守るメンバーも含め、参加者全員に意見を出してもらえることである。

カード・クラスタリングの実施法

会議においてカードを活用する手法は数々ある。基本的なやり方は以下のようなものである：

- グループメンバーに質問を投げかける。
- 参加者は、その質問に関するアイデアをカードに書く（例：一人当たりカード3枚まで）。各参加者は、個人ワークとしてカードに記入を行う。カード記入のルールは以下の通り：
 - カードに書き入れる前によく考える。
 - 1枚のカードには1つのアイデア。
 - 短い文章を使う。カードに長い文章を書いたり、1語だけ書くことは避ける。
- ファシリテーターは参加者に、グループの他メンバーに自分のカードを声に出して読み上げ、必要に応じて簡単に説明するよう促す。
- 1枚ずつ、すべてのカードを、フリップチャートまたは、壁や地面などに並べ、参加者全員がカードを見ることができるようにする。
- グループでカードについて話し合い、似たものをグルーピングしていく。グルーピングやグルーピングされたカードのタイトルについて、必ず全員一致で決めるようにすること。
- グルーピングのタイトルが決まった後、さらに検討を行い、議論する。

バリエーション：

センシティブなテーマの場合、誰がカードに記入したかが分からないように行い、参加者が意見を出しやすいようにすることもできる。この場合、ファシリテーターがカードを集め、読み上げる。

大人数の会議では、メンバーをサブグループに分け、そこで課題を議論し、そのグループのアイデアとして決まった数（たとえば3つ）のカードを選ぶように言うこともできる。グループが選んだカードだけを共有することで、全員の意見を取り入れつつも貴重な全員セッションの時間を節約できる。

扱いやすい数にまでアイデア（カード）の数を減らすのは、場合によっては時間がかかり、複雑な作業となる。この作業を行うため、我々はよく、Bob Williamsが生み出したファストブレイク（[FastBreak](#)）という手法を用いる。カードすべてに番号を振り、メンバーの誰かに、ペアになりそうな番号を挙げてもらう、参加者に次々とペア候補を挙げてもらう（「23番は8番と合いそうだ」）ことで、徐々にグルーピングの形が見えてくる。

カード・クラスタリングで最も困難なのは、このツールの参加型の特徴を損なうことなく時間をコントロールすることである。グルーピングやそのタイトルをこちらから提案してグループをサポートしたくなるものだが、グループメンバーから頼まれたときのみ行うようにすること。少数のメンバーのみが説明でき、また合意できる完璧なカードグループを作るより、少し時間がかかっても、メンバー全員が協働して分析を行う方が望ましい。

カード・クラスタリングの結果は、通常、さらなる少人数グループでのグループワークのスタート地点に相応しいものとなる（「これからの1時間、グループ1の課題についてさらに分析したい方はいますか？グループ2、3、4を担当したい人は？」）。



写真：ICCO南アジアの地域戦略についての優先事項を選ぶためのカード・クラスタリング（CDI, 2011）

さらに知りたい方は：

<http://www.kstoolkit.org/Card+Collection>

http://www.bobwilliams.co.nz/Tools_files/cluster.pdf

http://betterevaluation.org/evaluation-options/card_visualization

Salas M A, Tillmann H J, McKee N and Shahzadi N (2003) Visualization in Participatory Programmes VIPP How to Facilitate and Visualise Participatory Group Processes Bangladesh: Southbound for UNICEF.